

本を読んで

住宅に纏わる本は色々と出版されていますが、本当の事は何か良く解らないのが現状ではないでしょうか。と言うのは『外断熱』を多くの住宅に携わる人たちが、新聞の建売り住宅の広告の折込み等にも積極的に『外断熱工法の家』 広告を出していますが、本当の事が解りにくいと思います。

本当に外断熱だけが万能なのか、それとも別の方法でも快適な住まいの空間を作れるのかそのあたりの消費者への説明が大変不足しているように思います。

右記の本には基礎部分も外断熱が良いと唄っていますが、この事は全く知りませんでした。まさか基礎まで外断熱工法が必要だとは全く知りませんでした。

それで毎月勉強会をしている親しい建築士さんに教えて頂きました。

これは寒冷地の北海道から始まった設計だと仰っていました。北海道と言う場所は外部が

マイナス20度以下になります。そう言う場所で住まいを作る場合は基礎が外断熱になっていたら凄く快適な住まいが作れるのです。

ところで私は毎月北海道に出張で出かけていますが、利用している車は寒冷地仕様です。内地の車とは少し違います。内地仕様では冬場使えないのだから寒冷地仕様は必ず必要です。

しかし内地で家を建てる場合、多くのお金をつぎ込んでも本当に基礎まで外断熱が必要なのでしょうか。お金持ちが住まい作りをする場合予算は凄く有ると思います。しかし一般サラリーマンが住宅を持つ場合予算と言う物は必ず存在します。その中で癒される住まいが求められる訳です。

ところで日本人は昔から少しミーハー的な所が特徴として有り流行『外断熱工法の家』に凄く機敏です。熱しやすく冷めやすい性格が私を含めた日本人だと思います。しかし住まい作りは決してそう言うものではないと思います。

『外断熱工法の家』だけが良いのではなく他の方法でも十二分に快適な住まいが作れると思います。

骨組みが鉄骨の住まいなら必ず外断熱工法が最適だと建築士さんは言っていました。しかし木造の場合、壁内断熱も決して使えない事は無い。要は如何にコストパフォーマンスを上手く纏め上げる設計、【気密・断熱・空調・換気】の四つのキーワードを上手いこと組み合わせ、そして**結露対策**を十二分に注意した設計が一番お施主様に最適な住まいを提供できると言われていました。

住む人がいらっしゃって、お持ちの土地の形がどうなっていて、方角がこうで、予算がこの程度で、人生観がどうであって、趣味趣向がこうで、以上の要素を如何に纏め上げるのが住まいの設計だと言われていました。

私は色んな本を読みましたが、次の事は全く書いていません。本当に大事なものは、これから望まれる住まいとはまず家族団らんを演出出来るやすらぎを与える空間。そして単純にリフォームがしやすい設計。日頃の掃除のしやすい設計。家の中で事故が起こらない設計。日々発生する電気・ガス代が最小限で済む設計。

以上が最低限必要な住まいの条件ではないでしょうか。



広葉樹シーズンイン

広葉樹のシーズンが始まりました。広葉樹の本格的なシーズンには少し早いのですが、先月末に旭川で開催された銘木市に珍しく北海道日高産の競走馬で有名な新冠(ニイカップ)産の優良材カツラ原木が出品されていました。弊社は彫刻をされている大事なお客様の為に入念に下見をして無事落札できました。

製材も無事終わりました。色合いは卵色になる日高特有の柔らかくノミ当たりの良い質の原木でした。色合いはグーグルの動画サイトのユーチューブにてアップしています。【キーワード検索はカツラの彫刻材原木の製材で検索して下さい。】

私は北海道に約35年間(中学三年生の夏休みに二週間北海道に番頭さんと出張で出かけたのが最初です)出かけていますが国産の優良広葉樹原木は凄く減ってきています。35年前の中学三年の頃はカツラの良材原木は山のように積まれていました。

昔は広葉樹のシーズンインの10月から12月は凄く値段が高い傾向が有り、年を越えると値段は正常に戻る傾向が有りましたが、今は年間を通じて優良材は高止まりしています。

又何時優良材が出るのか解らないので北海道にて開催される広葉樹の銘木市を一回でも見送る事は致命傷になると言えます。それだけ広葉樹原木の優良材が枯渇してきているのです。

ところが現在は優良材と言える国産広葉樹原木は生産数量の1%くらいしか無いと思います。

*** 広葉樹でも痛み易い材とそうでない材が有る。痛み易い材はセン・ナラ・シナ・カバ。痛み難い材はカツラ・タモです。造材が始まるのが普通は11月初旬終わるのが3月下旬から4月初旬。35年前の当時の製材工場は散水設備が無く原木を長期間保管する事が出来ない為に、冬場に痛み易い原木を製材し、夏場に痛み難いカツラを製材する傾向が有りました。**



今の時期に出品されるのが本当に珍しいカツラ原木です。落札出来ました。



今の時期に出品されるのが本当に珍しいアサダ原木です。落札出来ませんでした。

材木の本当の話

原木価格はキズと径級によって価格が決まる仕組みになっています。原木は製材して製品にしますその時に歩留まりの良いしかも中身の良い原木が当然価格の高い物になるのは誰でも解ると思います。解り難いのは原木の径級で価格が違う点なのです。特に細かく使われる物に解り難い物が有ります。それは建具材です。

一般に和室の障子はスプルス材が比較的手に入りやすく又値段もこなれているので多用されています。しかし目に見えない所に落とし穴が有ります。それは色の白い建具材を凄く好まれるのですが、色の白い建具材（襖を含む）は細い原木から製材した方が取りやすいのです。しかし細い原木から取った建具と太い原木から取った建具を比較すると後の方が狂いにくい性質が有るのです。ただし色の点は前者の方が白い性質が有ります。

一般に建具は新築後二年位では狂いは出ないと聞いておりますが、二年過ぎた位に狂いが発生しやすいと聞いています。実際私の知人で5000万円の大手上場企業の分譲マンションを買ったのですが、建具に狂いが発生して来たと言っていました。私はその現物を見せていただきましたが、建具そのものから見て原木の太さは解りませんが多分細い原木から製材した建具材ではないかと推測しました。

【原木は太くなるにつれ過熟し色が少し変わる性質が有ります。若い時のほうが色合いは良い傾向が有る】

スプルス原木は径級が80センチ上、60センチ上、60センチ下と大まかに分かれています。径級が太くなるにつれ価格が上がるようになっています。当然価値の有る材が高いのです。

住宅の性能保証が来年以降実施されると聞いていますが、その保証は、建具等は該当しないと聞いています。そうすると最終末端の消費者のクレームが怖い大手ハウスメーカーは非木質の建具もどきの物を多用されなしかを危惧します。しかしそう言う物は木では無いためお施主様に安らぎを決して与えませんし、又将来産業廃棄物になるに違いないのです。

バイオエタノール工場で見学しましたが、集成材の廃材は産業廃棄物と見なされました。しかし無垢の木材廃材は立派にエタノールに替わり我々の将来起こりうる燃料不足を補う手段の一つになります。



アラスカ産スプルス特選優良材原木長さ11.20メートル一直径90センチ

家内の夢が叶ったキッチン

私の住まいは昭和62年に亡き父親が建ててくれたのですが、22年も建てば水周りは痛んでくるし、什器(レンジ)も傷みが酷く魚を焼くレンジもろくに焼けなくなってきました。しかし何分お金がかなり掛かる事なので3年間程延ばしてきましたが、もう限界に来たと家内が言うのでキッチンのリフォームを行いました。



従前の仕様



新しい仕様



工事は大阪市西成区岸里にある㈱酒井工務店さんに御願い致しました。(建てたのは大建ホームです。)見積もりから準備がスタートするのですが、ただキッチンに触れば良いだけでは済まない事が工事の進み具合により理解出きました。壁・天井・照明器具・換気口・水道・ガス・窓周り等の作業も二次的に発生しました。お世話になった職人の方々は解体屋さん・大工さん・電器屋さん・水道屋さん・ガス屋さん・塗装屋さん・タイル屋さん・襖屋さんと私が予想していた以上の方々にお世話になりました。来てくれた職人さん達は凄く礼儀正しくしかも優しい人たちばかりで家内は取りまとめをしてくれた工務店の社長と奥さんに感謝していました。

住まい作りとは、当たり前を当たり前にする事であると思います。しかしそれが一番難しい事ではなかろうかと今回のリフォームを通じて思いました。

住まい作りは人間教育の集大成であると思います。